

教育委員Essay  
シリーズ  
第2回

『日本の習慣と行事』

大分県教育委員 麻生益直

このコーナーでは、6人の大分県教育委員のエッセイを掲載します。教育委員は、県議会の同意を得て知事が任命します。教育委員6人の会議で、県の教育行政の重要事項や基本方針等を決定します。



日本には四季・暦により様々な習慣・行事があります。その節日、節日には必ず家族や、地域により様々な行事が行われそれに欠かせないものに日本酒があります。

私の仕事は日本酒の製造であります。創業は1864年(元治元年)幕末の頃になります。現存している一番古い酒蔵の屋根の梁に元治元年、棟上と記載されている事からその年を創業の年といたしました。ちょうど今、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の頃と同じ時代に創業したことになります。日本の幕開けが中央では血気盛んに起こっていた頃、玖珠の山の中では大きな酒蔵が建てられ日本酒を醸していました。平穏な山里であったと思います。そんな事を思うと不思議な気持ちと、146年間続いた家業を守らなければいけないという責任感が重くのし掛かって来ています。

今日は、今忘れかけている日本のしきたりと日本酒の関わりについて皆さんと確認してみたいと思います。

先ず正月のお屠蘇です。屠蘇とは、一年間の邪気を払い長寿を願って正月に呑む薬酒です。昔から、「一人これを呑めば一家病無く、一家これを呑めば一里病無し」と言われ、正月の祝いの膳には欠かせないものとなっていました。最近屠蘇自体知らない人が増えてきています。薬局に行けば売っていますので来年の正月にはそれを買って日本酒にילה家族皆で飲んで下さい。

家を建てる時の行事に地鎮祭、定礎、上棟式があり神事を行ない、安全祈願を行います。その後、直らいというご神酒を飲む習慣があります。

三三九度は婚礼時のおめでたい固めの盃として、日本の婚礼の儀式に基づいて夫婦および両家の魂の共有・共通化をはかる意味を持っています。男女が同じ酒を飲み交わすというもので、初めに女性が三度、次に男性が三度、最後に女性が三度の合計九度飲みます。

- そのほか暦に沿って並べてみると
- 1月-正月・初詣・七草粥・新年会・鏡開き・成人の日(第2月曜)
  - 2月-節分・春分
  - 3月-ひな祭り・卒業式・春の彼岸
  - 4月-入学式
  - 5月-端午の節句・母の日(第2日曜)



麻生教育委員略歴  
昭和56年 4月 八鹿酒造株式会社 入社  
平成10年10月 八鹿酒造株式会社  
代表取締役社長就任(現在に至る)  
平成12年 5月 大分県酒造組合理事(現在に至る)  
平成18年 4月 大分県教育委員会委員(現在に至る)  
平成20年 7月~  
平成21年7月大分県教育委員会教育委員長

- 6月-衣替え・父の日(第3日曜)
  - 7月-七夕
  - 8月-お盆・お中元
  - 9月-新学期・秋分・十五夜・秋の彼岸・敬老の日(第3月曜)
  - 10月-体育の日(第2月曜)
  - 11月-七五三
  - 12月-お歳暮・忘年会・大晦日・除夜の鐘・年越し蕎麦
- 次に暦に関係なく行なう行事として
- ①お宮参り・成人式・結婚式・葬式という人生の流れに沿って行なう儀式
  - ②還暦(60歳)・古希(70歳)・傘寿(80歳)・米寿(88歳)・白寿(99歳)の誕生を祝う儀式
  - ③贈答や儀礼には、中元・歳暮・年賀・暑中見舞い・寒中見舞い・火事見舞い・病氣見舞い・快気祝い・内祝い・水引・香典・香典返し・頼母子講
  - ④期日に関係ないものに、花見・海開き・山開き・夏祭り・運動会・文化祭・月見・秋祭り・雪見

本当に日本という国は四季折々様々な行事があり、それにはお酒が使われる機会が多くあります。

全ての行事を行うことも無いでしょうが、日本人として後世に残していかなければいけないものも数多くあると思います。そしてその行事はその殆どが学校ではなく家庭から発信されています。

「子供は親の背中を見て育つ」その事はいつの時代になっても変わらない事でありませう。こうした行事を通じて父親の威厳、母親の優しさ、家族の愛を子どもたちに教え伝えていきましょう。

学校、地域、家庭と三者で進める協育の取組を紹介 ②

きょういく  
支え隊



大分県教育委員会では、「協育」の大切さを認識し、「協育」に取り組む方々を応援しています。

「教育だよりおおいた」ではシリーズで、教育を支える人々を取り上げ、その活動を紹介しませう。

今回は、シリーズの第二弾として別府市立南立石小学校での取組を紹介しませう。

南立石小学校では、昨年からはPTAが中心となつて、ボランティアの学校サポーターが見守り活動など学校を支援する取組を始めています。

今年度からは、学校の要望に基づいてサポーターを募集し、学校支援の計画を立てて学校をサポーターする取組を実施しています。

水泳の授業におけるサポーターの指導補助は、学校からの要望で今年度初めて行いました。

6月21日に行われた3年生の授業では、4名のサポーターが参加しました。

子どもたちと一緒にプールに入り、手取り足取りのきめ細やかな指導に子どもたちも大喜び。

サポーターとして参加した人からは、「子どもたちは水と触れ合うことを無邪気に楽しんでいました。泳ぎの苦手な子には、私たちが手を取り、

バタ足の練習をしました。みんなで『頑張つて』、『上手になったやん』と励まし、褒めると、

どんどん上達して、満面の笑みを見せてくれました。今回初めてのサポート参加でしたが、子どもたちと身近にふれあい、一緒に楽しめて、とても良かったです」との感想も聞かれました。

子どもたちもサポーターに対して、「見て見て!」と上達度合いをアピールしたり、授業の最後には「また来てね」と声をかけるなどとても楽しそうでした。

また、個別の指導が必要な子どもにサポーターが手を貸すことによつて、担任の指導だけでは難しかった水に顔をつけることやバタ足、蹴伸びが



(サポーターによるプール指導の様子)

『南立石  
小学校って  
どんな学校?』

別府市のほぼ中央。別府駅の北西3キロほどに位置します。開校は何と明治9年!今年で開校135年を迎える非常に歴史のある学校です。全校児童は319名です。

できるようになる子どもたちが見られるなど、担任の教師にとつても大きな効果が実感できました。

水泳以外にも他の学習の支援をしたり、朝の挨拶運動をしたりと今年2年目を迎えた取組ですが、初めは「子どもたちのために」と思って参加したサポーターが、いろいろな学年の先生や子どもと知り合えたことが、結果として自分のためになっていると感じるなど、参加した人も満足でき、それが口コミでひろがって新しい参加者を集めることにも繋がっています。